



善正寺だより

掲示板法話

念仏の道は 何物も

妨げにならない大道です

コロナ危機の中で、自粛生活を強いられていた頃、新聞に2面見開きの大きな意見広告(5月21日、日本経済新聞、15・16面)が載りました。

「ウイルスに負けず健やかに暮らす、その羅針盤となる」5項目が挙げられています。

- 1、体力・免疫力を保持とう。
- 2、ポジティブ(前向きな)気分で行こう。
- 3、つながりを保とう。
- 4、感謝の気持ちを忘れずに。
- 5、大事なことは考え続けよう、という5つです。

外出自粛の巣こもり続きで、かなり精神的、体力的に弱っている人が多いと私も聞いていました。そこで、周りの人たちに「心と身体の免疫力が大事ですね」とお話してましたから、この記事に大いに共感を覚えました。身体の免疫力と共に、心の免疫力が大事とはどういうことでしょうか？



〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

めて前向きに乗り越える力があれば、鬱々とした引きこもり状態にならずに済むでしょう。そのことを親鸞聖人は「念仏者は無碍の一道なり」(歎異抄、第7章)と言われました。意識すると、念仏の道は、何物にも妨げられることなく乗り越える、自由な大道ということなのです。

南無阿弥陀仏は、お浄土のさとりの智慧が大慈悲の心となつて我ら悪業煩惱の身を救い取って放さないぞというお喚び声ですから、この身は常に仏の光に照らされ護られている身と知らされ、悪業も念仏の善と転じられる世界が開かれるのです。煩惱まみれのお粗末なこの身が仏さまの眞の命と共にあるという「つながり」を感じ取ることができれば、共にお念仏申す仲間と共に感謝の心を言葉や行動に表して共に苦難を乗り越える道が開かれるでしょう。

それは、「世の中安穏なれ、仏法広まれ」の願いとなつて社会の問題を共に努力して解決していこうという大切な問題へのアプローチになる筈で

☆行事予定・お知らせ☆

◇7月の門信徒会例会

7月 19日(日)午前8時半より 第3日曜の朝

高齢者が増えて夜の外出が危険と判断し、新年度の6月より朝8時半に変更。よろしくご理解下さい

- ①コロナに負けず、健やかに暮らそう。
- ②行事予定等

◇三重組十三日講 7月3日(金)午前(一般)御館浄蓮寺様 三上明祥師、コロナにより午後は御館同行様でお勤め

◇絵手紙教室 9月8日(火)10時より再開。53回目 『コロナに負けるな絵手紙展』6月8日~7月末、北ジャス前松原郵便局で川崎光子先生と門下生による作品展示 歌声喫茶再開時に改めて各人に連絡します。

◇5時の鐘撞きは毎日有リキッズサンガは7月4日(土)4時

◇8月の予定※『孟蘭盆会法要』14日(金)8時半本堂、納骨堂 『永代経法要』は15日(土)午後1時半と16日(日)午後1時半 講師加藤正人先生、(お経開き)15日午前10時半

◇一縁会テレホン法話059・354・1454で3分法話

◇百五銀行門徒展の作品大募集!第9回目10月に開催予定、

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧可、毎日更新のブログ『住職と坊守のつれづれ日記』大好評。開設11年11カ月で32万1千訪問。お悩み相談歓迎

◇新納骨堂後継者のない方お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所法事場所でお困りの方、本堂使用可ご相談下さい

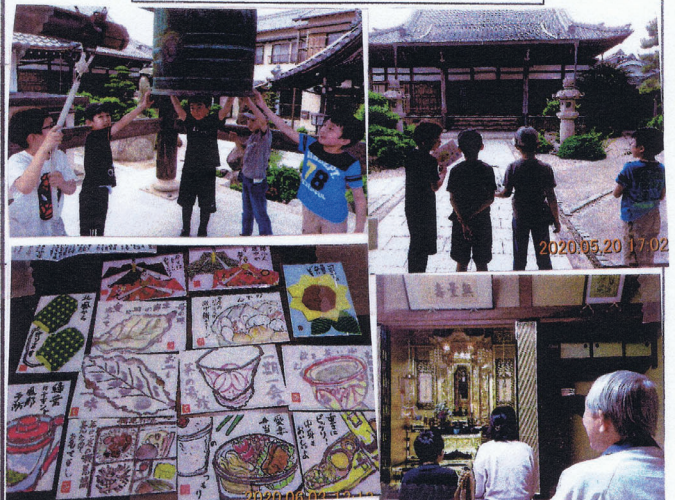
カンパありがとうございます
澤田美智江様・小西あき枝様・寛裕子様・他匿名様より頂戴しました。



す。感染症は、地球の温暖化や森林の大規模な伐採、砂漠化により今後とも起る可能性があるそうです。

これは人間中心の現代文明そのものへの警鐘だ、という人類共通の課題です。人間のエゴが地球を滅ぼさぬ生き方を我が事として考え、共に模索していききたいものです。

☆ 写真アラカルト ☆

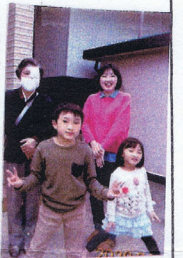


坊守スケッチ コロナ自肅中の新たな発見

2月から始まったコロナウィルス感染は、3月には全国一斉休校になり、4月には2か月間の全国自肅要請が出されました。5月末には一部解除されましたが、元の生活には戻れず、感染の火種は依然としてくすぶり続けて予断を許しません。東京オリンピックも1年延期が決定。コロナ禍は世界に感染拡大して、人々に不安と先が見えない経済的困窮を強いています。

お寺の行事も、軒並み中止か規模縮小かで悩みました。4月の仏婦『初参式&降誕会』は、規模縮小で無事お勤めができて、いささか安堵しました。

コロナ自肅中の4月と5月の2か月間、私は両目の白内障手術を受けました。手術自体は日帰りで済みますが、その前後の検査や通院治療が連日続きました。待合室で保護眼鏡とマスクをした患者さん達に混じって長時間待たされました。私にとっては世相ウオッチングの貴重な時です。今まで医者通いとほぼ無縁でしたので、病む人の気持ちばかり、高齢者が医者通いに費やす時間の多さに驚きました。私もこれから残された時間の大半を同じように過ごすのかと思うと愕然としました。60代の頃までは、あれもしたい、これもしたいと夢があり、視線を常に外に向けていました。しかし



古希を過ぎて体の不調があちこちに出てくると、夢や希望はたちまち消えて、自分の健康維持に努めます。

今回の歴史上稀に見るコロナ禍が世界中に突然襲い掛かると、これまで一生懸命追い求めていた幸せや価値観が、一転することに気がきました。

今まで「当たり前」であったことが、実は「おかげ様」の中で生かされている私自身であったと気付かされました。家族と毎日仏前にお参りする日課。これはご先祖が私に教えて下さった安心できる大事な生活習慣。沢山のひととご縁を結び、そのご縁の中に生かされている温もりと有難さ。いずれもコロナ自肅期間中に、自分自身と向き合う中で発見できた大きな喜びでした。

俳壇

青田中白鷺の白目にまぶし 釋妙水
眼鏡かけめがね探すや夏座敷
ひとりじめ満笑の亡夫さくらんぼ

麦を刈る平地に爆音鳴り響く
大きめのマスク離せぬ六月も
緑陰に硬き体を解きほぐす 釋榮邦

糸吐いて空中ブランコ松毛虫
麦刈りや麦のストロー遠き日に
浅黄色明日は何色七変化 釋清風

草叢に十葉の白匂ひ立つ
濃き薄き緑樹とりどり薄暑光
白壁を何故に上るや青蛙

夏草を刈り込む手をば修羅のごと

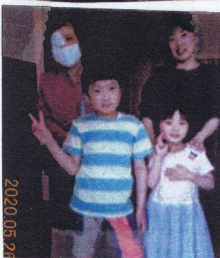
☆若院夫婦の「育自な日記」67

四日市市では想定より一週間早く、5月25日に新型コロナによる休校措置が解かれました。ちょうど暑くなってきた時季に通常授業に戻り、六限日課の増えた三年生の長男には、体力的に厳しい始まりとなりました。

それでも、久しぶりに会う級友の話を教えてくれて、夕方の鐘つきに来た友達と汗びっしょりで遊ぶ姿を見ると日常に戻ってきたと実感します。

もちろん、以前と全く同じ日常ではありません。毎日マスクが必要で、学校のプールや運動会、子供会の行事も次々と中止や延期になっています。第二波のニュースも気になります。心配性の長男は家族の行動が気になるらしく、「早く石鹸で手を洗って」とか、来客時にも「マスクをして行って」となどと言います。無防備はいけません。が、神経質すぎるのも疲れます。上手に共存・対応するために個々が知恵を絞る必要があるでしょう。

四月、長女の幼稚園が休園中、近所のお友達と交換ノートを始めました。子供だけでなく親も書き込み、回ってくるのを心待ちにしています。こんな小さな楽しみを見つけたことは今にもつながる喜びになっています。



ホットニュース

◇6月13日に新世話方様8名の内、善正寺門徒総代三名が決定しました。服部則男様、館勇次様、服部徹次様です。よろしくお願ひ申し上げます。

◇新行事さんは6月より、1館昭宏様 2館勤様 3佐藤和美様 4館純子様 5佐藤きぬめ様 6館十喜生様 7伊崎武男様 8森儀記様、行事長は館勤様、会計は館純子様です。

令和2年度善正寺主な行事案内

- ☆玉蘭盆会法要 8月14日午前8時半
- ☆秋季永代経 8月15(土)・16(日) 両日共午後1時半 加藤正人先生
- ☆報恩講 11月2日午後と夜・3日午前午後仏婦報恩講・守快信先生(滋賀)
- ☆秋動進 11月23日午前8時
- ☆お内仏報恩講 12月5日土前10時半
- 謹んでお悔み申し上げます
- ★服部好造様(5月19日往生・91歳・四日市市八幡町)
- ★服部みき様(5月20日往生・89歳・小杉)
- ★館恪三郎様(5月21日往生・85歳・津市緑が丘)
- ★川崎政美様(6月7日往生・71歳・西阿倉川)

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」319号をお届けします。◇コロナと共に暑い夏が到来。コロナ鬱や欲求不満では救いがない。◇お盆の季節、一声のお念仏でお浄土に蓮が咲くという。◇先祖のご苦勞を偲び、念仏申しつつ、柔らかな心で乗り越えよう。

突然降って湧いたコロナ危機。一体いつになったら収束するのか？
その後の生活はどう変わるのか？誰もが心配の種です。しか
し私にとってはコロナの恐怖よりも、白内障両目手術の不安と
戸惑いの方が大きい期間でした。手術前まで裸眼で新聞
も読めて眼鏡を使ったことのない生活でした。ただ運転の
時に霞みがかかったように見えるので、眼科へはつきり見え
る目薬をもらいに行ったら、「即手術」という予想もしない
診断でした。白内障はその昔「白底植」と言い、超高齢者
の病気だと思っていきましたが、近年はパソコンやスマホの強
い光で目を酷使する人が多いので、若者でも患う病気で
す。白内障は顔の皺や白髪と同じように眼の水晶体が白く
濁る老化現象。70歳以上の約80%がかかる病気です。手術
中に親からもらった大事な水晶体を人工レンズに取替える
時に、何だか親に申し訳ない気持ちになりました。多くの
手術経験者が「よく見えるようになった」と感激するそう
ですが、私は正直言って、感激よりも、近くを見る時に老
眼鏡が必要になり、眼鏡を持ち歩く不自由さを痛感
しています。コロナ期間中は医者通いも増えて自分の老い
と向き合う時間が多くなりました。以前の生活が元通り
になると思えませんが、再び若い頃に戻れないのと同じよう
に、年齢を重ねながら、その時々折り合いをつけて、納得
のいく人生を歩みたいと思います。コロナ禍と白内障手術
で、私の古希の生きたる覚悟が問われています。6月より
例会は第三日曜午前8時半です。よろしくお願ひします。

令和二年七月

合掌

善正寺方守拝